

The 79th Concert of PHILHARMONIC ENSEMBLE ORCHESTRA

フィルハーモニックアンサンブル管弦楽団
第79回演奏会 [結成50年記念]

4/11
SAT. 2026

元NHK交響楽団首席奏者

永峰 高志

TAKASHI NAGAMINE

コンサートマスター



ハノーファー国際コンクール
優勝 (史上最年少)

三浦 文彰

FUMIAKI MIURA

ヴァイオリン

©MASAHIRO UTO

11/17~24
プレイガイド先行発売
(事務局での販売はありません)



FELIX MENDELSSOHN BARTHOLDY
VIOLIN CONCERTO E MINOR OP. 64

メンデルスゾーン
ヴァイオリン協奏曲 ホ短調 作品64

RICHARD STRAUSS
AN ALPINE SYMPHONY OP. 64

R. シュトラウス
アルプス交響曲 作品64

大友 直人

NAOTO OTOMO

指揮

OPEN 17:00
START 18:00

NO PRESCHOOL CHILDREN ADMITTED
※未就学児の入場はご遠慮願います



FOLLOW US!

S席 3,500円 A席 3,000円 (全席指定)

プレイガイド (12月1日一般発売開始)

- ▷キョードプロデューサーズ
- ▷チケットぴあ (Pコード: 313-534)
- ▷イープラス
- ▷ローソンチケット (Lコード: 32637)
- ▷東京芸術劇場ボックスオフィス
- ▷PEO事務局 03-3565-6383



WEBページ

東京芸術劇場

TOKYO METROPOLITAN THEATRE CONCERT HALL

コンサートホール

池袋駅西口より徒歩2分 駅地下通路2B出口直結
2-minute walk from West Exit of Ikebukuro Station

©ROWLAND KIRISHIMA

大友 直人（指揮） NAOTO OTOMO

桐朋学園在学中に22才でNHK交響楽団を指揮してデビュー以来、日本の音楽界をリードし続けている日本を代表する指揮者のひとり。これまでに日本フィル正指揮者、大阪フィル専属指揮者、東京交響楽団常任指揮者、京都市交響楽団常任指揮者、群馬交響楽団音楽監督を歴任。現在東京交響楽団名誉客演指揮者、京都市交響楽団桂冠指揮者、琉球交響楽団音楽監督、高崎芸術劇場芸術監督、瀬戸フィルハーモニー交響楽団ミュージックアドバイザー。

国外においてはロイヤルストックホルム管弦楽団、フランス国立ロレーヌ管弦楽団、オーケストラカンヌ、オーケストラトスカーナ、ブッチーニフェスティバルオーケストラ、ルーマニア国立放送交響楽団、インディアナポリス響、コロラド響に等に度々招かれており、ハワイ響には旧ホノルル響時代から20年以上にわたり定期的に招かれている。またフィルハーモニア管弦楽団の日本ツアーの指揮者も務めた。また、東京文化会館の初代音楽監督として東京音楽コンクールの基盤を築いたほか、数々の自主制作の企画を成功に導いた。

毎年夏に横浜で開催される国際音楽セミナーMMCJを2001年に指揮者のアラン・ギルバートとスタートさせ、共に創立音楽監督を務めるなど教育活動にも余念がない。

幅広いレパートリーでも知られ、その中でも日本を代表する邦人作曲家作品の初演やジェームス・マクミラン作品及びジョン・アダムスのオペラ日本初演等は代表的に挙げられる。

小澤征爾、森正、秋山和慶、尾高忠明、岡部守弘らに学ぶ。NHK交響楽団指揮研究員時代にはW・サヴァリッシュ、G・ヴァント、F・ライトナー、H・プロムシュテット、H・シュタインらに学び、タングルウッドミュージックセンターではL・バーンスタイン、A・プレヴィン、I・マルケヴィチからも指導を受けた。大阪芸術大学教授、東邦音楽大学特任教授。京都市立芸術大学、洗足学園大学各客員教授。

三浦 文彰（ヴァイオリン） FUMIAKI MIURA

2009年世界最難関と言われるハノーファー国際コンクールにおいて、史上最年少の16歳で優勝。国際的に一躍脚光を浴びた。18年からサンクトリーホールARKクラシックスのアーティスティック・リーダー、24年に宮崎国際音楽祭の音楽監督に就任した。これまで、ロサンゼルス・フィル、ロイヤル・フィル、ロイヤル・リヴァプール・フィル、マリンスキー劇場管、チャイコフスキーシンフォニーオーケストラ、ベルリン・ドイツ響、NDRエルプ・フィル、ハノーファーNDRフィル、フランクフルト放送響、シュトゥットガルト放送響、ケルン放送響、BBCスコティッシュ管、エーテボリ響などと共演。共演した指揮者には、ドッダメル、ゲルギエフ、フェドセーエフ、ズーカーマン、ロウヴァリ、ティチナーティ、オロスコ＝エストラーダ、フルシャなどが挙げられる。サンクトペテルブルクの白夜祭、シュレスヴィヒ＝ホルシュタイン音楽祭、マントン音楽祭、メニューイン・フェスティバルなどの国際音楽祭にもたびたび招かれる。リサイタルでは、ループルでパリ・デビュー、ウィグモアホールでロンドン・デビューを果たす。ロンドンの名門ロイヤル・フィルのアーティスト・イン・レジデンスも務めた。国内では、大河ドラマ「真田丸」テーマ音楽を演奏したことやTBS「情熱大陸」への出演も大きな話題になった。22/23シーズンは、バルセロナ響、ウィーン室内管などと共演し、ピリスとのデュオリサイタルも行った。24年4月には、イスラエル・フィルの定期公演に出演して絶賛を博した。近年は指揮活動もはじめており、スペインのアリカンテ響、東京フィル、京響、広響なども指揮して好評を博す。25年には、フィルハーモニア管、バンベルク響と共演。CDはエイベックス・クラシックスよりリリース。09年度第20回出光音楽賞受賞。22年「FORBES」ASIAにおいて「30 UNDER 30（世界を変える30歳未満の30人）」に選出される。すでに19年には「FORBES」JAPANにおいても30 UNDER 30に選ばれている。使用楽器は株式会社クリスコ（志村晶代表取締役）から貸与された1732年製ガールネリ・デル・ジェス「カストン」。

フィルハーモニックアンサンブル管弦楽団（オーケストラ） PHILHARMONIC ENSEMBLE ORCHESTRA

「ホールも楽器の一部」との基本理念から、演奏会場も音響の良いホールを求め、東京を本拠地としつつ、国内外の名ホールを訪ねる演奏旅行なども企画し、幅広い地域との交流を行っている。1976年、立教大学交響楽団OBにより、合唱団の依頼に応えるかたちでヘンデル《メサイア》祝祭オーケストラとして結成。1979年に初の主催演奏会を開くにあたり、門戸を広げ、一般の社会人オーケストラとして東京を中心に自主運営活動を続けている。2026年に結成50周年を迎える。

1992年、USAコンサートツアーでは、フィラデルフィアおよびニューヨークのカーネギーホールで公演。日本を代表するジャズピアニスト山下洋輔とガーシュイン《ラプソディ・イン・ブルー》などを共演し、喝采を浴びた。1998年、ウィーン楽友協会大ホールにて日本をモチーフにした曲を紹介。2000年、北京・世紀劇院大ホールにてマリンバ奏者安倍圭子と共演し、指揮の太友直人とともに安倍の自作曲を紹介。2002年5月にはベルリン・フィルハーモニーホールにて、三枝成彰作曲のカンタータ《天涯》を大友直人指揮で海外初演し、「モルゲンポスト」紙などで好評を博す。2004年3月、レオンカヴァッロ作曲のオペラ《ラ・ボエーム》をトヨタコミュニティコンサートの一環として日本初演し、音楽関係誌で絶賛された。2007年7月には小林研一郎指揮で第3回ヨーロッパ演奏旅行を実施。ハンガリー・ブダペストにてベートーヴェン《第九》、オーストリア・ウィーンにてマーラー《交響曲第2番「復活」》を演奏し、好評を博した。2009年7月、オランダ・アムステルダム・コンセルトヘボウ・サマーコンサートに招聘され、小林研一郎指揮でマーラー《交響曲第2番「復活」》を演奏。満席の聴衆からスタンディング・オベーションを受けた。2010年11月、三枝成彰団長の六本木男声合唱団倶楽部に同行し、イタリア・ミラノ大聖堂にて三枝成彰《レクイエム》を演奏。2012年7月、チェコのドヴォルザーク・ホールにて小林研一郎指揮のもと、チャイコフスキー《交響曲第5番》などを演奏し、スタンディング・オベーションを含む大喝采を浴びた。2018年9月には、チェコのスメタナ・ホールにて矢崎彦太郎指揮のもと、R.シュトラウス《ホルン協奏曲第1番》（独奏：カテジナ・ヤヴールコヴァ）、西村朗の作品などを紹介した。

2016年9月、開校した矢祭小学校の校歌（小林研一郎作詞・作曲）のお披露目会、2025年9月には開校10周年記念コンサートのため福島県矢祭町を訪れ、小学生や周辺地域の人々に小林研一郎の指揮でオーケストラ音楽を届けた。2017年11月、ポール・ラッシュ博士の生誕120周年を記念するコンサート（山梨県）に出演し、地域活動にも貢献している。

国内の主催公演では、徳永兼一郎・徳永二男兄弟（ブラームス《二重協奏曲》）、ピアノの金子三勇士、山下洋輔、小山実稚恵、仲道郁代、パスカル・デュヴァイヨン、ヴァイオリンの大谷康子、千住真理子、山根一仁、チェロの宮田大、フルートの細川順三、工藤重典、ギターの荘村清志、声楽では森麻季、メゾソプラノのエレナ・オブラスツォワなど、多彩なアーティストと共演している。

演奏会のライヴCDとして、マーラー《交響曲第2番「復活」》、同《交響曲第3番》、《エレナ・オブラスツォワとともに》、R.シュトラウス《英雄の生涯》（コンサートマスター：大谷康子）、ショスタコーヴィチ《交響曲第5番「革命」》をリリース。1998年には当時ベルリン・フィルのソロ・トランペット奏者であったコンラディン・グロート教授と共に、トランペットの名曲を満載したオリジナルCD《トランペット協奏曲》を、2004年にはベルリン・フィルのソロ・トロンボーン奏者オラフ・オット氏とのCD《トロンボーン協奏曲集》をカメラータ・トウキョウより、2012年にはドヴォルザーク・ホールでのライヴCDをオクタヴィア・レコードからリリースしている。

これからの

演奏会

第3回チェコ演奏会 2026年9月14日(月)

ブルノ・ベセドウニードゥーム [指揮：薩摩研斗 ピアノ独奏：薩摩研斗]

第80回演奏会 2026年11月15日(日)

すみだトリフォニーホール [指揮：薩摩研斗 ピアノ独奏：薩摩研斗]

第81回演奏会 2027年3月21日(日)

東京芸術劇場 [指揮：下野竜也]